THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA

WEEKLY
なごや ちくさ 週

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
承　認　1982年　8月24日
例会日　火曜日　12:30
例会場　愛知厚生年金会館
事務局　TEL763-5110 FAX763-5121
会　長　笹野義春
幹　事　佐久間良治
会報・雑誌委員長　舎人経昭

No. 38

# 人類が私たちの仕事　MANKIND IS OUR BUSINESS

2001～2002年度　RI会長　リチャード D・キング

## きょうの例会

第948回　平成14年5月14日(火)

講　演　"日本語の行方"

NHK文化センター　岐阜支社長　野田　昇司氏

(紹介　浅井君)

## 先週の記録

第947回　平成14年5月7日(火)　曇り

◆"君が代""我等の生業"

◆出席報告

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会　員 | 70(61)名 | 出　席 | 47名 |
| 出席率 | 77.05% | | |
| 前々回 | 4月16日(修正出席率) | | 96.72% |

◆ビジター紹介　3名

◆ゲスト紹介

愛知学院大学歯学部　教授　千田　彰氏

## 谷口副幹事報告

1．次回例会終了後、クラブアセンブリーを開催致しますので、担当の方は鳳凰の間にお集まり下さい。

2．ロータリーの友5月号とガバナー月信が来ております。又、昨年の地区大会参加者には記録誌が届いておりますので、合わせてお帰りにお持ち下さい。

## 三好新世代委員長よりお願い

以前、お話させて頂きましたが、11日(土)IAC主催の恋の三社めぐりウォーキングスタンプラリーが、高牟神社を9時からスタートし、晴明神社や上野天満宮を回り、最終地の城山八幡宮を目指し開催されます。

地域の新聞「山の手ホームニュース」にも掲載されましたが、参加希望が少なく淋しい状況です。

ラリーに参加下さる方、又は4ヶ所のスタンプ設置場所でお手伝い頂ける方はお知らせ願います。

お一人でも多くのご参加をお願い致します。

◆委嘱状授与

2002～'03年度米山奨学生　王　道海君のカウンセラーとして、石黒君に委嘱状が副会長より手渡されました。

## 小坂井副会長挨拶

みなさん、こんにちは。

笹野会長が高熱の為、本日の挨拶文を預かっておりますので代読させて頂きます。

皆さんそれぞれ意義深いゴールデンウィークをお過ごしになった事と思います。

先月、川崎市の病院で起きた「安楽死事件」で、女性医師が意識不明の男性患者に「これ以上の延命は忍びない」と筋弛緩剤を投与し、死亡させたとして警察は殺人容疑で事情聴取をしています。安楽死の是非については、91年の東海大学付属病院事件で論議を呼び、殺人罪で有罪となった医師の判決の中で要件が厳しく限定されています。

① 患者が耐えがたい肉体的苦痛に苦しんでいる。
② 死が避けられず、死期が迫っている。
③ 肉体的苦痛を除去・緩和する為の手段が無い。
④ 生命の短縮を承諾する患者の明確な意思表示がある。

以上の4つの要件が横浜地方裁判所の判決で示されたのです。

今回はこれらの要件が満たされないと問題になっていますが、安楽死や尊厳死の問題はおおいに議論されなければならないと考えます。

15歳以上の意思能力のある人が不治の傷病で死期が迫っている末期、無用と判断される延命措置を医師に対し拒否する宣言のことをリビング・ウィルと言います。リビング・ウィルは、医師の治療裁量権に患者の意思を反映される性格のものと言えましょう。

81年の世界医師総会で「患者は尊厳を保ちつつ死ぬ権利がある」という「リスボン宣言」が採択され日本医師会も尊重の意思を表現しています。日本でもリビング・ウィルが浸透し、日本尊厳死協会では76年創設以来「尊厳死の宣言書（リビング・ウィル）の登録・保管を進めてきました。入会希望者は年会費3,000円（夫婦の場合は4,000円）を添えて送ればいいそうです。

オランダでは、この３月に国家レベルとしては世界初の「安楽死を合法化する法律」が発効されました。

医師による安楽死は一定の条件さえ満たしておれば90年から事実上認められており、癌患者を中心に毎年約2,000人が死を選んでいるそうです。

生きる事の執着心の度合いによって、考え方はそれぞれ違うと思いますが「尊厳のある生」は「尊厳のある死」をもって完結するという事でしょうか。

◆講　演

## “モンゴルでの歯科医療協力”

愛知学院大学歯学部　教授　　千田　彰氏

（紹介　黒須さん）

モンゴルは1990年にそれまでの共産党一党制の社会主義が崩壊し市場経済制へと移行した。この急激な大変革は国民生活に非常に大きな影響を与える結果となり、一時は日本の新聞にも数回にわたって報じられた「ストリートチルドレン」の氾濫などの混乱がみられた。私は1997年に当時の在モンゴル日本大使、愛知学院大学歯学部に事務局をおく医療ボランティア団体、日本口唇口蓋裂協会の要請を受け、首都ウランバートルへ出張し、歯科医療、医学教育について調査する機会を得た。その後大学、日本大使館、同協会の援助を受け、大学の教員ボランティアらと共にモンゴル国立医科大学、ガンセンター、母子病院との交流をもちながら、継続的に歯科医療援助や技術移転を行っている。また当初から「草原の歌姫」オユンナさんが主宰するボランティア団体オユンナ基金の孤児収容施設「ティムレル」やモンゴルの僻地での診療も行ってきている。

モンゴルは日本の４倍の国土面積と21県、約250万人の人口をもつ。現在も人口の60%が遊牧生活を送り、多くの人々がいわゆるテントである「ゲル」の生活、馬や家畜そして自然を愛し、民族の伝統に誇りをもって生活している。そのようなモンゴルに対して、さらには民族のルーツであるからか、また「司馬遼太郎」の歴史ロマンに郷愁を感じるからか、日本にはモンゴルファンが多い。日本との「友好協会」の数は、その大小を問わなければモンゴルとの間のものが最も多いとのことである。しかし一方では首都ウランバートルの光景、活気はこの数年で明らかに様変わりし、独特の民族衣装で道を歩く人の姿が少なくなり、将来の土地の私有化を期待しているのか郊外では塀がやたら目立つようになった。ある意味では悪い部分での「発展」が進んでいて歴史、文化、伝統の継承という良い部分とのバランスが大きく崩れかけているように感じられる。

歯科を含めて医療の実情は極めて悪く経済的混乱がここでも根本的な問題となっている。約900人弱といわれる歯科医師のうち500人程度しか「歯科医療」に従事できないという現実を見てもそのことが明白である。支援する側からすると「どこから手をつけたらよいのか……」という状態で当初は50年の隔たりを感じた。しかし振り返ってみると私たちの歯科医学、医療の歴史も決して成功の道のりだけではなく、切り捨てるべき失敗の時間もある。すなわちモンゴルの歯科医学、医療の「50年の遅れ」には、ショートカットしてよい部分もあり、私たちの失敗の歴史をモンゴルで繰り返さなければ未来にある理想の歯科医療、医学の「かたち」に向かって私たちと手を携えて進むことができる……と信じている。これが私の「発展途上国モンゴル」への歯科医療、医学援助の基本的な姿勢である。

## ニコボックス

**大口　弘和**

本日の卓話の講師として、千田彰教授をお迎えして。

**浅井　誠寿**

北海道の芽吹きの勢いに驚きました。

一日になるかの北の芽吹きかな

**在田　忠之・二村　聰**
**萩原喜代子・林　哲央**
**池田　隆・石黒　正則**
**伊藤　健文・伊藤三津子**
**伊豫田博明・神崎　住恵**
**加藤　重雄・河村　政孝**
**菊池　昭元・小林　明**
**小杉　啓彰・小坂井盛雄**
**久野　峯一・牧野登志子**
**松居　敬二・宮尾　紘司**
**三好　親・水野　民也**
**森　幸一・永井　勝**
**成田　良治・西川　豊長**
**西野　英樹・佐野　寛**
**澤田　淳治・鈴木　理之**
**竹内　眞三・谷口　優**
**舎人　経昭・和田　正敏**
**山本　英次・吉田　節美**
**吉田　玄**

ゴールデンウィークは楽しく過ごせましたか？

**小山　雅弘**

会員誕生日祝い

**加藤　大豊**

結婚記念日祝い

| 合　計 |
|---|
| 55,000円 |

◆次回例会（５月21日）

クラブフォーラム（創立20周年記念事業に向けて）　　松居実行委員長